

新潟ジュニアドクター育成塾

R3.12.26 No.11

ドクタープログラム「成果発表会」 12月26日(日)

マスタープログラム「成果発表」 12月28日(火)～1月12日(水)

ドクタープログラム「成果発表会」では、11名の受講生が、課題研究で取り組んできた研究について生ライブ発表を行いました。

当日は、牛木辰男学長、坂本信理事、大鳥範和理学部長にもご参加をいただき、挨拶や激励の言葉をいただきました。

ドクタープログラム課題研究は、コロナ禍を受け、昨年度に引き続いて限られた条件下で進めなくてはならない状況でしたが、大学当局の理解や指導を担当してくださった先生方、課題研究を引き受けてくださった企業の皆様、アンケートに協力いただいた学校などの多大なご協力により、それぞれが工夫を凝らした中で研究を進めることができました。今年度の受講生は、昨年度のドクタープログラム成果発表会を視聴した経験を生かし、どの発表も優れたプレゼンテーションでした。研究過程の中間発表的な発表が多かったですが、今後さらに研究を進めていくことにより、対外的な科学コンテストへの出品に繋がっていく可能性が高い研究が多いと感じました。

浅賀岳彦新潟大学ジュニアドクター実施委員長からは、「活動の制限がかかる中で工夫を凝らして研究を行っていた」「自然と人の共生を科学することを目標にしている新潟ジュニアドクター育成塾の想いを課題研究で実践している」などと評価してもらいました。また、「今後もグローバルな視点で考える力と地域を牽引する力を身につけて欲しい」「好奇心をどんどん膨らませて独自の研究を継続して行って欲しい」とのメッセージをもらいました。



マスタープログラムの成果発表は、スライドや動画等の成果発表物を受講生同士が視聴する形式で行いました。まとめる内容は、受講した様々な講座内容を基に、自分で観察や実験をしたこと、調査したことなどをスライドにするというものです。多くの受講生は、プレゼンテーションソフトを使ってのオリジナルのスライド作成に初挑戦しましたが、約半数の受講生は動画による発表形式までできるようになりました。

成果発表では、ドクタープログラム・マスタープログラム受講生とも、知的好奇心の高さや発想の柔軟性、プレゼンテーション技術習得の速さが十分に発揮されていました。ドクタープログラム受講生がこれからどんな成長を遂げるのか、マスタープログラム受講生が自ら設定した研究テーマにどう取り組んでいくのかを、ワクワクする思いで見守っていきたいと思います。

※この取組は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)による「ジュニアドクター育成塾」事業(2019年度～2023年度)に採択されています。